

蹴つて思ふ、研究所にある人の作なら、恐らく若い人だらう
由來若い人には賞美は毒なものださうだ、これは自慢をして修
養を怠る爲めだと聞く、おれはこう思ふ、この畫はよいが講師
だちはそれを恐れて、價值相當の賞詞を惜しみはせぬか、こう
思つたら矢も楯もない、無暗に褒めなくなつた、素人だつて鬪は
ぬ、世の多數は素人だ、具眼者の賞美は好みに違ひないが、資
格のないものゝ讚歎も悪いことではあるまい、雪舟の繪を小供
が賞めたとて、雪舟の價を損じることとはあるまい。

僕は夏目氏を水彩畫界に歓迎するものだ、

九月七日

山崎紫紅

鹿の糞 (その三)

■三山亭にも名物男が少しは居た■まづ誰れにも目につくのが
二十四貫君■去年は二十貫君が居たが今年の方が進歩した■二
十四貫君が傘を飛ばし寫生箱を覆へすといふ大奇劇があつたが
お預りとしやう■下駄を片ッポ壊したから片ッポだけ買ふのだ
といふ奇人も居る■夕立の時は雨と雨との間を通つて少しも濡
れないといふ細かい人も居る■松の寫生畫の前へオモチヤの鹿を
二匹並べてドーダ離れて見えるだらうと頗る得意である人もあ
つた■三山亭のオカミは十八貫ある僕は男でありながら十一貫
二百は情ない何處かで悲觀してゐた人があつた■枳屋の連中
にも少しは奇談がある■■が炊きたてで熱いのでオヒヤを呉れ
といふたら水を持つて來た■近所に『いもぼろ』と云ふ行燈があ

る何の事か分らぬのでわざ／＼問ふたら芋と棒鱈の煮つけて今
はないと言はれたげな■『かしわ』と書たそばに『なつがれ』と書
き並べてある何の事たが終にわからぬ■一行五六人法隆寺へ往
つた時中々大事件をやらかした■途中の梨畑で梨を買つて食つ
たのはよかつたがそれが爲め瀛車に乗遅れた■次はまだ時間が
あるといふのでそのうちの一人が床屋へ入つて髻を剃らせた■
また剃り切らぬうち汽車が來たので慌て、石鹼のついてゐるま
ゝでプラツトホームへ飛出した■他の一人は急いで向ふ側へ行
ふとして走り出した■同時に上りと下りの列車が一時に入つて
來た■今一步ほんの一瞬間で轍の下の露とならんず一大危機に
會した■それと氣のついた他の人達はあらん限りの聲を立て、
呼止めたので危ふくもこゝに一命をとりとめた■あゝ危ふし危
し命拾ひをした人は歸つたら何かお祝ひがあるだらうと思つた
が美ん車的が外れ申候

△ △ △

英の女流畫家ルーシー、ケンプ、ウイル嬢は動物の寫生を以て
一寸名を知られた人であるが、此の間戰爭畫を描くために一匹
の馬をその畫室に入れて寫生してゐると如何したはづみか、馬
は急に荒れだして直ぐに畫室を跳り出て其畫室の所在地たるブ
ツセイの市中を駆け廻つた。それで嬢も驚いて警官や市中の人
々と侶に馬の跡をば追つかけて廻つて夢中になつてゐるさまの、
なんとやつても活動寫真に好くある圖なので、人々拍手して興
がつたそうである(新公論)